

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：32683

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）

研究期間：2016～2019

課題番号：15KK0060

研究課題名（和文）1960～70年代日本前衛映画に関する横断的研究（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Transdisciplinary Research of 1960s-1970s Japanese Avant-garde Films (Fostering Joint International Research)

研究代表者

平澤 剛 (HIRASAWA, GO)

明治学院大学・文学部・研究員

研究者番号：00573792

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,000,000円

渡航期間：4ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究は、1960～70年代を中心とする日本前衛映画を対象に、作家・作品研究にとどまらず、同時代の批評や上映形態などの受容、近年に至る国内外の研究動向を幅広く調査しながら、理論的、歴史的分析を進めるとともに、他分野の研究者との共同による新たな領域横断的な研究の提起・発展を目的とした。また、作品の発掘、修復、保存という実践的な作業と学術的研究を一体化させた方法論の構築もあわせて目指すため、同分野に関連する研究基盤や設備を有しているアメリカ合衆国の大学、フィルム・アーカイブ、美術館との共同研究を行なった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本とアメリカ合衆国の専門家による映画研究、芸術史の枠組みをこえた領域横断的、かつ実証的な研究によって、日本前衛映画の検証を多角的に進めるのみならず、デジタル化を含めた作品の修復保存を行い、それらの素材を用いてアメリカと日本を中心とした大学、映像機関、美術館などで上映や展示を企画することで、学術的のみならず、さらに幅広い国際的、社会的な関心を高めることができた。

研究成果の概要（英文）：This research, whose subject is Japanese avant-garde film from the 1960s and the 1970s had the objective of developing a theoretical and historical analysis through conducting research not only on artists and their work, but rather a wide-ranging investigation that included criticism from the era, the reception of the screening methods, as well as recent research trends in Japan and internationally. By collaborating with researchers from other fields, the aim was to present and develop new interdisciplinary research as well. At the same time, in order to construct methodologies that integrate hands-on work such as the excavation and subsequent restoration and preservation of artists' work with academic studies, I conducted joint research with related universities, film archives and museums with established research backgrounds and facilities in the United States.

研究分野：人文学

キーワード：映画研究 前衛芸術史 フィルム・アーカイブ フィルム・キュレーション

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入り、1960年前後から1970年代前半を中心とする日本の前衛映画——実験映画、芸術映画、個人映画、アンダーグラウンド映画、アートアニメーション、ドキュメンタリー映画などで実験的な表現を展開する周縁的映画——に対する国際的な注目が集まっていた。その後、多くの作家・作品研究が進行し、他分野の専門家による横断的な検証も盛んになった。しかし、こうした映画は、表現の性質上、作家個人や独立プロダクションによって制作、保存されているため、包括的なデータベースは構築されていなかった。映画文化機関や美術館で収蔵されることも稀であり、劣化・紛失の危機に瀕している作品が少なくなかった。また海外のフィルム・アーカイブや美術館に貴重な日本の作品が収蔵されている場合もあったが、その実態は国内ではほとんど把握されていなかった。ゆえに、国内の調査研究のみならず、海外でも同様な作業を進めていく必要があった。

2. 研究の目的

1で指摘した問題点を踏まえ、国内のみならず、海外における調査、作品のリスト化を進め、デジタル化を含めた修復保存が必要とされる作品については、その作業を行った。そして、既存の映画研究の枠組みにとどまらず、修復保存も学術的な対象としているアメリカ合衆国の大学、映画・文化機関と共同研究を進めることで、有機的な国際ネットワークを構築しながら、日本前衛映画の修復保存という実証的な作業と学術的研究を一体化させていくことを目的とした。

3. 研究の方法

研究代表者が、ニューヨーク大学を共同研究先として、2016年、2017年、2019年度においてそれぞれ滞在し、現地資料の調査収集とリスト化、関係者への聞き取りを行った。またニューヨーク近代美術館、アンソロジー・フィルム・アーカイブ、ハーバード・フィルム・アーカイブなどのキュレーター、アーキビストと技術的な課題を共有しながら共同研究を進めた。平行して国内での資料調査、聞き取りなども行いながら、作品・資料のリストを作成した。また調査の過程で修復、保存が必要と判断された作品に関しては、ニュープリント、マスターポジ、インターネガの作成、およびデジタル化を行なった。

4. 研究成果

日本前衛映画で重要な役割を果たしてきた作家や関係者への聞き取り、作品の調査、および修復保存、デジタル化などの作業を国内外の研究者、フィルム・アーカイブ、映画団体、美術館、NPOとの共同、協力によって行なった。(足立正生、宮井陸郎、金坂健二、飯村隆彦、おおえまさのり、アツチ・シュウゾウ・ガリバー、など)また、アメリカ合衆国における前衛映画の修復と保存、デジタル化の現状についての調査を行い、技術的な研究にもつとめた。それらの研究成果をシンポジウム、ワークショップ、講演会、論文、研究書といった学術的な発表としてのみならず、フィルム・アーカイブ、国際映画祭、美術館などで上映や展示の場を設け、研究基盤の整備や幅広い関心の獲得につとめた。2016年度からその成果を定期的に国内外で発表してきたが、2019年度末に計画していた複数の学術会議、ワークショップ、特集上映、展示などは、コロナ感染症の拡大によって、一部をのぞき延期、中止となり、渡航もキャンセルとなった。主な学術的な論文、発表については5を、その他(上映・展示、発表)については以下を参照。

上映・展示

More than Cinema: Motoharu Jonouchi and Keiichi Tanaami, Pioneer Works (New York, USA), March-April 2020

The Other Japanese New Wave: Radical Films from 1958-61, Japan Society (New York, USA), April 2019

The Other New Wave: Alternate Histories of Post WWII Japanese Cinema, Harvard Film Archive (Cambridge, USA), March-April 2019

『昨日からの別れ—日本・ドイツ映画の転換期』、『1968年—蜂起する路上』、東京ドイツ文化センター(東京都港区)、2018年5-6月

CUT/GASH/SLASH - Adachi Massao - A Militant Theory of Landscape, Rose and Shaheen Saleeby Museum, American University of Beirut (Beirut, Lebanon), March-August 2018

Shuji Terayama: Emperor of the Underground and Throw Away Your Books: The Films of Shuji Terayama, Harvard Film Archive and Anthology Film Archive (Cambridge and New York, USA), November-December 2017

Nagisa Oshima: The Dawn of Asia, TV Politics, documenta 14 (Kassel, Germany), July-August 2017

Three Radical Japanese Filmmakers, Harvard Film Archive (Cambridge, USA), March 2017

Rikuro Miyai 's Expanded Cinema, Art Institute of Chicago (Chicago, USA), February 2017

Newsreel Documentaries of Masanori Oe, International House Philadelphia (Philadelphia, USA), February 2017

Japanese Experimental Cinema-Between Protest and Performance, Block Cinema, Northwestern University (Chicago, USA), February 2017

No Game: Cinema Expérimental et Documentaire au Japon dans les Années 1960, Le Bal (Paris, France), September-October 2016

1968 in Japanese Cinema, Guanajuato International Film Festival (Guanajuato, Mexico), July 2016

発表

平沢剛「風景論と報道論」『1968：転換のとき 映像における性と政治をめぐって』、東京ドイツ文化センター（東京都港区）2018年6月3日

平沢剛「宮井陸郎における映画の拡張」『第10回恵比寿映像祭 Beyond the Frame』、東京都写真美術館（東京都港区）2018年2月24日

Go HIRASAWA, "Nagisa Oshima and TV", Nagisa Oshima: The Dawn of Asia, TV Politics, Documenta 14 (Kassel, Germany), July 20, 2017

Go HIRASAWA, "Rikuro Miyai and Japanese Expanded Cinema", Rikuro Miyai 's Expanded Cinema, Art Institute of Chicago (Chicago, USA), February 9, 2017

Go HIRASAWA, "New Directions in Research and Program on Japanese Experimental Film", To Preserve Film is to Project it: A Conversation about Networked Archiving and the Preservation of Japanese Experimental Film, Slought Foundation (Philadelphia, USA), February 3, 2017

Go HIRASAWA, "On Masao Adachi and Female Student Guerillas", Light Industry (New York, USA), January 31, 2017

平沢剛「研究、キュレーションを通じた実験映画の発掘、修復、保存」『第11回映画の復元と保存に関するワークショップ』、イマジカ（東京都品川区）2016年8月28日

Go HIRASAWA, "History of Japanese Radical Cinema", 1968 in Japanese Cinema, Guanajuato International Film Festival (Guanajuato, Mexico), July 27, 2016

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平沢剛	4. 巻
2. 論文標題 一回性が生み出される瞬間 城之内元晴試論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Collaborative Cataloguing Japan: Essays	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Go Hirasawa	4. 巻 73
2. 論文標題 ATG's Early Year and Underground Cinema	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Art Criticism in Taiwan	6. 最初と最後の頁 77-91
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 平沢剛	4. 巻
2. 論文標題 政治、街頭、あるいは日常への拡張	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 エクスパンデッド・シネマ再考	6. 最初と最後の頁 94-105, 138-148
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 6件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 Japanese New Wave: Nihon University Film Club and VAN Film Science Research Center
3. 学会等名 The Other Japanese New Wave (Columbia University) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 Eizo Yamagiwa and Japanese New Wave
3. 学会等名 Conversation with Eizo Yamagiwa about Japanese New Wave Cinema (Harvard University) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平沢剛
2. 発表標題 映画の拡張から風景へ 一回性から不可視性への移行
3. 学会等名 第10回恵比寿映像祭:国際シンポジウム インヴィジブル、インターメディア、エクспанデッドー映像の可能性 (東京都写真美術館、明治学院大学) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 History and Politics of Japanese Expanded Cinema in the 1960-70s
3. 学会等名 1960s Japanese Expanded Cinema (New York University) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 New Directions in Research and Program on Japanese Experimental and Independent Film
3. 学会等名 Shifting Materialities of Film: Projection, Preservation, and Research (Harvard University) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 Masanori Oe and Japanese Experimental Film
3. 学会等名 Japanese Experimental Cinema Between Protest and Performance, 1960-1975 (Northwestern University) (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Go Hirasawa
2. 発表標題 Theorie du Paysage et Cinema Radical
3. 学会等名 Japon dans les Annees 1960 (Maison de la Culture du Japon, Institut National des Langues et Civilisations Orientales and Le BAL) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 平沢剛
2. 発表標題 日本実験映画アーカイブの現在
3. 学会等名 日本実験映画アーカイブの現状と課題 (明治学院大学)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Go Hirasawa, Ann Adachi-Tasch and Julian Ross	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Archive Books, Germany	5. 総ページ数 222
3. 書名 Japanese Expanded Cinema and Intermedia: Critical Texts of the 1960s	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
主たる渡航先の主たる海外共同研究者	ルーサー トーマス (Looser Thomas)	ニューヨーク大学・東アジア研究科・Associate Professor	